

連携先世界遺産：真言宗御室派総本山仁和寺

仁和寺の魅力・価値がグローバル・ローカルに高まり、新たな「ご縁」を生み出せる企画を実施する可能性を探る

■受講生

| | |
|-------------------------|------------------------|
| 赤堀 美紗 (同志社大学文学部2回生)、 | 岡本 泰輝 (立命館大学政策科学部1回生) |
| 近藤 洋平 (立命館大学国際関係学部4回生)、 | 曾田 毬水 (立命館大学国際関係学部4回生) |
| 堂川 千智 (立命館大学政策科学部2回生)、 | 坪井 理祐 (龍谷大学農学部1回生) |
| 中川 紗綾 (立命館大学政策科学部1回生)、 | 中村 聖 (立命館大学産業社会学部3回生) |
| 中村 夏海 (立命館大学経済学部2回生)、 | 秦浦 良紀 (立命館大学政策科学部4回生) |
| 森崎 裕加 (立命館大学政策科学部3回生) | |

■担当教員

桜井 政成 (立命館大学政策科学部教授)、山田 大地 (立命館大学非常勤講師)

活動目的・概要

本授業の目的は、地域活性化の一手法である「Asset-Based Community Development (アセット・ベースド・コミュニティ・ディベロップメント) (ABCD) を活用し、仁和寺の魅力・価値がグローバル・ローカルに高まり、新たな「ご縁」を生み出せる企画を実施する可能性を探ることです。「ABCD」とは、地域に存在する資源をもとに地域を活性化し発展させることで、ここでの「資源」とは、その地域に存在する文化財や自然・景観などはもちろんのこと、その地域に存在する学校や病院や企業、また多様な地域住民や住民間のつながりなど、あらゆるもの地域活性・発展のためのものを「資源」ととらえます。授業を通じて、学生は世界遺産の地域的価値を理解し、コミュニティ・ディベロップメントの基本的な方法を理解していきます。

授業では、学生が1,100年以上の歴史を持つ仁和寺の「強み」を理解し、また、周辺に存在する学校や宿泊施設、店舗、交通機関等の地域資源を理解することで、新たな企画の提案を考えていきます。さらには、そのアイデアに基づいた試験的な取り組みを実現することも目指していきます。



◆主な活動

2017. 5. 28 全体オリエンテーション

2017. 8. 4@仁和寺

関係者からのオリエンテーション、ABCDアプローチの理解(レクチャー)、今後の調査計画の立案

2017. 9. 15~17@仁和寺

①インタビュー調査(寺社関係者、観光客、周辺飲食店、地域住民、まちづくり協議会)

②調査のまとめ

2017. 10~ 各キャンパスごとに発表の打ち合わせ

2017. 11. 12 企画の実施

2017. 12. 10 世界遺産関係者と振り返り、成果物発表

活動の成果

ぼうずかふえ

<企画の背景・主旨>

一般にはお坊さんに悩みを聞いてもらえるイメージがある(坊主Barのように)、しかし檀家などではない限り話すのが難しいイメージがあるのでカフェなどの丸いイメージを通して話す機会を設ける。

<企画の内容>

境内内の「茶所」を使って、お坊さんと話したい人を募集・受付をする。お客さんにはお茶を配る。話す内容は、何でも。仁和寺のことで質問をしたり、仏教のことを聞いたり、個人的な悩み相談もOK。(当日は4名の仁和寺の僧侶の方々にご対応頂いた)

お坊さん体験

<企画の背景・主旨>

ヒアリングを通じて、地域住民にとって仁和寺は誇りであると共に、敷居の高い寺院であるという意識があることが読み取れた。また、近くにあるものの、案外、仁和寺の伝統文化については理解が深まっていない。そこで、地域の今後を担う子ども達に、仁和寺の伝統文化に親しみ、理解を促す機会を計画した。

<企画の内容>

1回30分程度。1回につき1~5組の親子を中心とした観光客が参加。御影堂を使って、①仁和寺からの説明、②掃除体験、③御真言をあげる体験、④ふりかえり、という内容で行った。

仁和寺ロケラリー

<企画の背景・主旨>

仁和寺は有名な映画やドラマのロケ地になっている。るろうに剣心、大奥、陰陽師をはじめ多くの使用されている。このことは仁和寺の付加価値を高めているといえるが、一般的にはあまり知られていない。この付加価値を広めるためにロケ地をめぐるロケラリーを行う。

<企画の内容>

有名な映画のロケ地を示したマップを製作し、観光客に配布してまわってもらう(当日は150部配布)。学生が巡回し、マップを持った観光客に、エピソードなどを伝える。

また参加者にTwitterやInstagramに「仁和寺ロケラリー」とタグ付けしたロケ地の写真を上げてもらい、上げた人の写真の中から抽選で選んだ写真を仁和寺の公式Twitterアカウントで上げる。

華道体験

<企画の背景・主旨>

仁和寺の伝統文化である御室流華道を地域の子ども達に理解してもらう。

<企画の内容>

(華道の先生などにもご準備頂いたが、準備不足により中止。大変申し訳ないことをしました。)

活動を振り返って

(本年度はまだ授業が終わっていないため、昨年度の学生の声を代わりに掲載致します)

「企画立案してから実行するまでのプロセスは、想像以上のハードルの高さに苦しんだ点も否めないが、意欲的に取り組むことができ、個人的には、悔いもあったが満足している。間違いなく、今回の企画は仁和寺の方と地域の方の協力なしには起こりえないものであり、感謝感激している。」

「本講義を通して私は、「自身の学科で学ぶ考えが全てな訳ではない。これからの時代、もっと柔軟な発想が必要なのでは。」と気付くことができた。この経験はきっと将来役立つと信じている。」

「地域の子供たちには新たな発見を促し、観光に来た子供たちには、仁和寺の魅力を知ってもらうことができたと考えられる。」

「今回のイベントは小規模のように思えたが、(中略)話題性に富んだ企画だったと思う。問題意識を持ち企画立案し実行までしたのは政策科学部に入って初めてのことでありとても新鮮だった。仁和寺さんもこれが今後の参考になれば嬉しいし、私もこの経験を生かしこれからの政策科学部での研究につなげていけるなどと思った。」

担当教員からのコメント

本年度も、大学は偏ってしまいましたが、学部・回生はばらけたので、多様な学生が集う授業になりました。調査し、企画を立てるにあたっては授業外のミーティングが複数回必要でしたが、キャンパスも異なることもあり、全体で集まることは不可能でした。キャンパス毎や、企画毎に打ち合わせを重ね、イベント当日に至りました。例年そうですが、打ち合わせの難しさを感じます。

本年度は準備不足により中止になった企画もあり、多大なご迷惑を仁和寺側におかけいたしました。また、教員が企画に貸与した貴重な備品の紛失もあり、当日の現地での管理運営体制に重大な懸念が残りました。

本年度は教員2名体制を始めて取りましたが、それを活かせるかたちにはあまりなっておりませんでした。それも次年度に向けての課題です。

短期間で企画を自分たちで実施するというのはいささかハードルが高い取り組みであります。これまで3年間行ってくる中で、仁和寺関係者、地域の方々におかれましては、学生の学びへの理解を賜り、助けられてきて、現在にいたっております。築き上げてきた信頼感を損ねることなく、しかし学生ならではのフレッシュな視点を活かし今後も何らかの企画を実施していくためには、より授業の運営の仕方を工夫しなければならないと痛感しています。